

## 2 探究的な学習の充実

これからの社会を生きる児童生徒が、生涯にわたって学び続け、答えのない問いに立ち向かっていくためには、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すなど、探究的に学ぶ力を育成することが不可欠である。

さらに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むためには、「社会に開かれた教育課程」の視点から、各学校において、地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実を図り、児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させることが重要である。

そこで、県教育委員会では、探究的な学習の充実を目指し、PBL（プロジェクト型学習）の考え方をを用いた授業改善や「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえたキャリア教育の充実、ルーブリックを活用した学習評価の研究を進めていく。

### (1) PBL（プロジェクト型学習）の考え方による授業改善

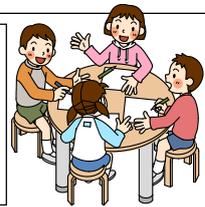
「課題発見・解決学習」をはじめとした主体的な学びの質をより高め、児童生徒一人一人が思考し続けることのできる授業改善の一例としてPBL（プロジェクト型学習）の考え方がある。PBL（プロジェクト型学習）とは、「授業での子供たちの学びをプロジェクトとして組織し、その達成へと促す手法」であり、実生活・実社会の「答えがない問い」を扱い、その解決に向けて探究し、解決策を社会に提案・発信することで、児童生徒の主体的な学びを引き出そうとするものである。

#### 【PBL（プロジェクト型学習）の特徴】

- 「答えがなかったり、ひとつの解が存在しなかったり、発展性のあるプロジェクト」を扱う学習。
- プロジェクトの遂行を通して、他の学習にも応用できる汎用的能力の育成を目指す学習。
- 「社会に開かれた教育課程」の視点で、教科等を横断しながら、実生活・実社会の課題を解決し、社会へ還元する学習。
- 「将来こうなるためにはどうしたらいいのだろうか？」と考え、現実と未来のギャップを埋めるような探究を組み込む学習。

探究的な学習における課題とPBL（プロジェクト型学習）の考え方を取り入れることにより期待される効果の例は次のとおりである。

【課題】	【期待される児童生徒の姿】
課題を自ら見付け、設定する等、課題が児童生徒自身のものとなっていない。	実生活・実社会から、児童生徒自身が解決したい「答えのない問い」にチャレンジする。
目的が不明確で情報収集が、パソコンと本の作業的な調べ学習に終わっているな。	プロジェクトの達成に向けて、児童生徒が情報収集の方法を選択し、パソコンや本に加えて、インタビューやフィールドワーク等、様々な情報収集活動を行う。
あらかじめ教師が学んで欲しいことを児童生徒に順に与えてしまっているな。	教師も答えのない問いに対して、児童生徒と一緒に考え、児童生徒の興味・関心や創意工夫によって、探究の過程を繰り返しながら多様なゴールに向かう。
「まとめ・表現」に対する取組に工夫する余地があるな。	校内の発表に加えて、解決策を専門家や企業、行政機関に提案し、評価を受けたり、社会に貢献する取組を行ったりする。
自らの考えや課題を新たに更新し、次の探究につなげるにはどうすればいいかな。	現実の難しさを実感したり、プログラムを遂行した経験や専門家からのフィードバックを受けたりすること等により、新たな課題が生まれ、探究が繰り返される。



これまでの「課題発見・解決学習」の実践の積み上げの上に、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考にしていくことで、児童生徒の探究的な学習がより一層充実していくと考えられる。さらには、児童生徒や学校の実態に合わせ、「異学年集団による実施」「小グループ等での個別の探究課題の設定」等の学習の形態の工夫や「企業等の出前授業（教育プログラム）の利用」等の様々な資源の発掘と活用等、各校がカリキュラム・マネジメントの中で、考え続けることが重要である。

本県では、令和6年度から、探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業として県内6中学校区を指定し、探究的な学習を行う総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムの開発・実践を行った。

### 【高等学校での事例】

県立商業高校では、学校間で連携しながら、生徒の主体的な学びを促す教育活動を推進するとともに、社会に開かれた教育課程を踏まえ、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の資質・能力を育成することを目指し、プロジェクト型学習の要素を取り入れた学習プログラムの開発に取り組んできた。

例えば「人はなぜ生きるのか」「これからの世の中はどうか」などの「本質的な問い」を掲げ、生徒が、人としての在り方や生き方という広い視野から、自分を取り巻く環境や世の中の変化に目を向け、「商業を学ぶ意義」や「商業を学ぶ喜び」が感じられる学習プログラムとなっている。



起業家精神育成プログラム

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/syougyoukyouiku-kigyoukaseishin.html>

## (2) キャリア教育の充実

### ア 「ミツカル！ひろしまカンパニー」の開設

探究的な学習においては、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、自ら問いを見いだし探究することのできる力の育成が求められており、児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させることが重要である。

そのため、県教育委員会では、県内の学校が様々な業種の企業等とつながり、体験活動等を充実させることを目的として、職場体験活動・インターンシップや出前講座などのキャリア教育に協力可能な企業のデータベースを掲載したウェブサイト「ミツカル！ひろしまカンパニー」を令和7年12月に県教育委員会のホームページに開設した。

このサイトは、キャリア教育に協力可能な企業を業種別・所在地別・連携可能な項目別で検索可能なデータベースを備えているほか、児童生徒が自己の職業興味検査等を行うことができるサイトを紹介している。

各学校において、このサイトを活用することにより、総合的な学習（探究）の時間はもとより、学校の教育活動全体で企業と連携した体験活動が充実することが期待される。

URL:

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/mitsukaru-hiroshima/>



### ■ トップページ（メインビジュアル）



## ■企業検索画面

次の4項目から検索可能

- 職場見学（社会見学）
- 職場体験・インターンシップ
- 授業への講師派遣（出前授業等）
- 授業との長期連携（課題提供・伴走支援、共同研究など）

### イ 小・中学校における取組例

各学校において、社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質や能力を身に付けさせるためには、「卒業時点でできるようになってほしいこと」として、「基礎的・汎用的能力」を基に、キャリア教育を通して身に付けさせたい力を具体的に設定することが必要である。

広島県では、「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を設定している。

これらの力の育成に向け、学習指導要領が示す「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえ、今の自分たちの教科の学びが社会の発展とつながっていることを児童生徒が実感できるよう、キャリア教育において、次に示すような産業界等と連携・協力した取組の充実を図ることが重要である。

## ①「出前授業」により、今、学校で学ぶ意義を実感！

身近な地域の方々を積極的に活用した産業界の外部講師による「出前授業」を、教科等と関連させながら実施する。

例えば、庄原市立東小学校第6学年算数科「拡大図と縮図」の授業では、地元の建設会社と連携し、単元の内容と測量の仕事のつながりを学ぶことで、教室での学びと実際の仕事と繋がりを実感することができた。

○庄原市立東小学校の出前授業の様子



(児童の感想)

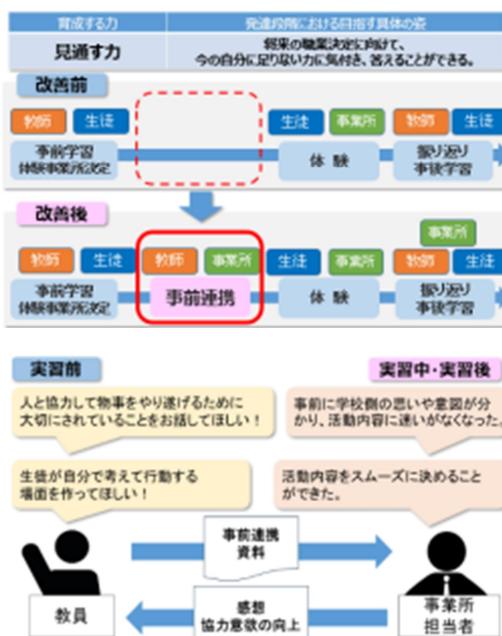
- ・教科書で勉強したことが、測量の仕事とつながった！
- ・図形の学習が生かされている！！

## ②「職場体験」の受入れ先事業所と育成を目指す資質・能力を共有！

中学校では、現在、ほとんどの学校で職場体験活動が実施されている。職場体験活動で勤労観・職業観に加え、資質・能力を効果的に育成していくためには、職場体験活動を通じて育成を目指す資質・能力を、受入れ先の事業所と学校とが丁寧に関わりながら、実際の職場体験活動を進めることが重要である。

次に示す江田島市立江田島中学校の事例では、中学校として育成を目指す資質・能力を事業所と事前連携資料を基に連携しており、事業所と学校が体験活動に対する思いや意図を共有することで、資質・能力の育成につながる活動内容となっていくことが考えられる。

○江田島市立江田島中学校の職場体験活動での取組



### 【自己理解能力・自己管理能力の育成】

自分自身はどんな人間で、何ができるのかを考えさせるきっかけにしたいと考えています。そのために、生徒の良いところやできたことなどを見つけて、  
 ・「あなたはこんなところが良いね。」  
 ・「あなたはこんなことができるんだね。」等、  
生徒の良いところを見つけ、生徒へ伝えていただきたいです。

### 【人間関係形成能力・社会形成能力の育成】

自分の特性を生かし、人と協力して仕事をしていくことの大切さを考えさせるきっかけにしたいと考えています。そのために、  
 ・「なぜ、あいさつが大切だと思いますか？」  
 ・「人と協力して何かをするために大切なことはどんなことかな？」等  
人と協力して仕事をやり遂げるために大切にされていること等をお話していただきたいです。

### 【課題対応能力の育成】

自ら課題を発見し、工夫して解決する力を身に付けさせたいと考えています。そのために、ある程度、仕事の流れ等をご指導いただいた後で、  
 ・「よりきれいに仕上げるためには、どんな工夫をしたらいい？」  
 ・「より、効率よくするためには、どんな工夫をしたらいい？」等  
生徒が自分で考えて行動できる場面を作っていただきたいです。

### 【キャリアプランニング能力の育成】

将来就職するまでに、どんな力をつけておくべきなのか、そのために、今をどう過ごすか自分で考え、見通しを持って生活させていきたいと考えています。そのために、生徒への仕事内容の説明や生徒とのコミュニケーションの中において、  
 ・「この資格は、高校の〇〇科で、〇〇して・・・」  
 ・「学生の頃、将来〇〇しようと思って・・・」等  
お持ちの資格等の取得の方法や、事業所様が、学生時代に考えていたことなどをお話していただきたいです。

(「事前連携資料」より抜粋)



<教育プログラムで育成を目指す資質・能力>

- ・ 学びに向かう力、人間性等  
 全ての人が多様な生き方を実現できる社会を作るために主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。
- ・ 思考力・判断力・表現力等  
 ライフプランニングのために必要な考え方や手立てについて理解し、情報を活用し意思決定する。
- ・ 知識及び技能  
 多様な生き方や価値観を認め合い、誰もが活躍する社会を共に作ることの重要性を理解する。

**授業1** 多様な生き方（ライフプラン）について知る

- ライフプランは個人の価値観が反映され、多様なものであることを理解させる。
- ライフプランニングをするために必要な行動や課題、取り組む必要があることについて、具体的に考えさせる。



**授業2** ライフプランニングのために必要なことについて考える

- 社会的な仕組みや他者からの共感や理解も、ライフプランを支えるものであることを理解させる。
- ライフプランの実現を支える仕組みを理解し、支援紹介シートから、有効と考える具体的な支援を選択させる。
- 自分のライフプランニングや多様な生き方・価値観を認め合う社会づくりのために、自分ができていることに取り組もうとする意欲を高める。



**体験活動** インタビュー活動

- 聞きたいことを明らかにし、それに適した人材を選ぶことを通して、身近な人のライフプランニングへの関心を高める。
- インタビュー活動を通して、ライフプランニングに向け、他者を尊重し、関わりながら自ら行動しようとする態度を養う。



<授業構成>

②開発モデル校の実施における検証報告

<開発モデル校の概要>

	広島観音	安古市	安芸南	総合技術
学科	総合学科	普通科	普通科	専門学科
教科等	産業社会と人間	家庭科	総合的な探究の時間	家庭科
学年 クラス数	第1学年 6クラス	第1学年 8クラス	第1学年 5クラス	第1学年 6クラス

## <実施報告>

### 生徒アンケートの結果

- ・ 93%の生徒が、本プログラムを実施する際に、課題を解決しようとする主体性や情報活用能力を発揮することができたと回答した。
- ・ 自身のライフプランについて、考えていこうと思った生徒は、52.3%から96.3%（44ポイント向上）になった。
- ・ 自身のライフプランニングを実現させるための仕組みや制度について調べてみたいと思った生徒は、19.3%から86.8%（67.5ポイント向上）になった。

### 教員アンケートの結果

- ・ 90%以上の教員が生徒は興味をもって取り組んでいたと感じ、ねらいを達成するために発達段階に応じた有効な内容と教材であったと評価した。
- ・ 79%の教員が、本プログラムが男女の固定的役割分担意識の解消に必要な視点や他者の考えや個性を受け入れる力の取得に寄与していたと回答した。

## **（３）STEAM教育の視点を取り入れたカリキュラム開発**

令和4年度から実施されている高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の学びを基盤としつつ、多様な情報を活用してそれを統合し、課題発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていくことができる生徒の資質・能力の育成を目指した探究的な学びを充実させるため、STEAM教育の視点を取り入れてカリキュラムの質的向上に取り組んでいる。

複数の教科等の見方・考え方を総合的・統合的に働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱い探究する活動を充実させることを目指すものである。

## **（４）高等学校におけるルーブリックを活用した学習評価**

本県では、令和3年度より教育目標に基づき、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、具体的な生徒の姿を見取るためのルーブリック（学校全体で育成する資質・能力のルーブリックを「マスタールーブリック」と呼ぶ）を各学校で作成し、活用していくことを通して、指導の評価・改善につなげていくことに取り組んでいる。

### **【ルーブリック作成及び活用の手順の一例】**

- ① 生徒の現状を踏まえ、学校全体で育成する資質・能力を設定する。
- ② マスタールーブリックを作成するに当たっては、育成する資質・能力について、卒業時に到達する基準を決めて段階を設定する。
- ③ ②で作成したマスタールーブリックをもとに、各教科や総合的な探究の時間、特別活動等において、単元や1時間ごとの授業のルーブリックを作成する。
- ④ ルーブリックを活用して生徒に学習の到達度を確認させ、次の学習への見通しをもたせる。

【呉宮原高等学校の事例】

(作成したマスタールーブリック)

成長 領域・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
<b>&lt;自律&gt;</b> 様々な意見や情報を踏まえて、自分の力で考え適切に判断し行動することができる。 ① (読解力・情報リテラシー) ② (自己管理能力)	自分の力で考え判断して行動しようとしている。	自ら考え判断して行動している。	他者の意見や様々な情報を踏まえて、自ら考え判断して行動している。	内容を十分に理解した上で適切に選択した他者の意見や情報を踏まえて、自ら考え判断して適切に行動している。
<b>&lt;挑戦&gt;</b> 高い目標に果敢に挑戦し、粘り強く努力を続けることができる。 ① (プランニング能力) ② (チャレンジ精神) ③ (継続力)	様々な場面や将来の進路について、自らの目標を設定しようとしている。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、自らの目標を設定することができる。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、高い目標を設定し、その実現に向けて挑戦している。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、高い目標を設定し、その実現に向けて計画的に努力を続けている。
<b>&lt;貢献(社会性)&gt;</b> 他者を思いやり協力して行動することにより、仲間や学校・地域に貢献することができる。 ① (他者受容・思いやり) ② (協働しようとする態度) ③ (課題発見・解決能力)	他者の存在を認め、思いやりをもって行動しようとしている。	他者の存在を認め、思いやりを持って行動している。	他者の存在を認め、思いやりを持って行動することができる。	仲間や集団、学校・地域の課題に対して、他者と協力しながらその解決のために取り組んでいる。

- <自律>**  
 ① (読解力・情報リテラシー) = 他者の意見を素直に受け入れるとともに様々な情報を自ら収集して、それらの内容を理解した上で適切に取捨選択することができる。  
 ② (自己管理能力) = 他者の意見や収集した情報を踏まえて、自ら考え判断して適切な行動をとることができる。
- <挑戦>**  
 ① (プランニング能力) = 自ら目標を設定し、その目標達成のための行動計画を立てることができる。  
 ② (チャレンジ精神) = 自ら定めた目標に果敢にチャレンジしている。  
 ③ (継続力) = 目標達成に向けた努力を継続することができる。
- <貢献(社会性)>**  
 ① (他者受容・思いやり) = 他者の存在を認め、思いやることができる。  
 ② (協働しようとする態度) = 他者と協力して行動することができる。  
 ③ (課題発見・解決能力) = 自ら課題を設定し、その解決のために取り組むことができる。